



# The NEW KINAN JOURNAL of MEDICINE

NKJM 2018, vol.88  
June 30<sup>th</sup>, 2018

東京大学医学部附属病院から参りました初期研修医 2年目の上田 真之です。

新幹線で降りた名古屋から在来線に乗り換え、刻々とその形を変える霧のおぼろげな山並みを眺めながら都合4時間ほど列車に揺られてこの紀南病院まで来たのがもう一か月前かと思えない程にあつという間の研修でした。それだけ多くのことを見聞きし経験し非常に充実した一か月だったのだと思います。

研修が始まって先ず目についたのが各部署間のいい意味での垣根の低さでした。医師同士だけでなくメディカルの方も含めて総力を以て治療にあっている姿というのは組織が大きくなるほど見えにくくなっていくものですが、この紀南病院ではその姿がとてよく見えました。実際には人的・物的資源の乏しさという差し迫った問題も背景にあるのだとは思いますが、そのような環境だからこそ病院内・病院間・そして病院外まで含めた地域全体でのつながりを大切にしていることがたった一か月しか居なかった身であっても非常に強く感じられました。



また、この一か月は同時期の研修医がいなかったということもあり研修面では救急外来に興味深い症例が居る時にはそちらに下りたり、徐に日がな一日診療所研修に行かせていただいたりと、かなり自由度高いいろいろなことをさせていただきました。この一か月で文献を引いて病態を考察するような複雑な症例も何例か診ることが出来たのは非常に良い経験だったと感じております。

院外での研修でも多くのことを学びました。

消防研修で熊野消防署に伺った際には、救急活動のメディカルコントロールだけでなく、メディカルラリーでも消防が病院と密に連携しており、来るかもしれない大災害に対して町全体として積極的に取り組んでいる姿に感銘を受けました。医療従事者からだけでなく病院以外の組織も主体的に地域の医療に関わるという姿勢によってこそ本当の意味での地域医療の向上が得られるのだと学びました。



ミニタウンミーティングで引作を訪問した際は、まちレベルでの健康意識を向上させる啓発運動が大切であることを学びました。このような形のミーティングに出席する人は比較的時間があり健康意識も既に高い方々ばかりですが、参加しない人たちに対してどのような形で二次的に啓発を進めるかなどまだまだ課題は多いこともわかり、その中で医療者と地域の人



たちのつながりだけでなく、地域の人たち同士のつながりもまた不可欠であり、過疎・高齢化が特に進み段々と交流も少なくなる山間部の地域こそ人と人との交流の大切さが浮き彫りとなってくることがわかりました。

鈴木先生に同行する形で行った紀和・育生の診療所研修では、待合にいる患者さんやその家族に地域の話聞かせてもらいました。銅鉦山で栄えていたところに比べると紀和の方も人が随分と減ってしまった話、どの地域でも小学生・中学生までは地域にいても高校になると通学の関係で地域の外に行ってしまうその後なかなか帰ってこないという話を聞きました。

また、往診の際には山間部でも特に人里離れた地域に暮らす人たちの生活を目にしました。買い物ひとつとっても行商に頼らざるを得ず、病院にかかるのも大変な環境の中にあつて一生懸命に暮らす人たちの姿を見ているとどこか遠くに置いてきてしまった気持ちを思い出さずでした。



神島の診療所研修では、小泉先生の指導の下、診療所で研修させていただいた後に診療所外で島の人たちと交流をさせていただきました。高齢化率が48%と非常に高齢化の進んだ神島ですが、住宅街が山肌に沿うように作られているため島中に階段も多く、また、80歳近くなくても海女さんを現役で続けている方もいらっしゃり、体を動かすということが生活の中に自然と組み込まれていることによるものか診療所に来る方々の足取りは90歳近い方であっても非常に軽やかであったのが印象的でした。認知症予防目的に高齢者向けに開催している勉強会では100マス計算や漢字ドリルなどに和気藹々とみんなで楽しみながら取り組んでいる姿からも、或いは人と人とが顔をつきあわせた触れ合いの中でしか生き生きとした人間らしさは浮かび上がらないという当たり前のことが鮮烈に突き刺さるようでした。

今後、世界中で高齢化が進む中で当然問題となってくるのは地域の高齢化であり人口減少であり、ひいてはそれに伴う地域内・間の分断であると思います。現在は地域の問題として取り上げられることも多い高齢化・人口減少ですが遠からず政令指定都市規模の町にもふりかかる問題であり、この一か月でそうした問題に取り組んでいる方々に接したことで得られたものは何にも代えがたいと思っております。

一か月という非常に短い期間ではありましたが地域研修をする中でもここでしか見聞きできない多くのものを経験させていただけたと感じており大変感謝しております。一か月間、本当に有難う御座いました。

